

令和4年10月定例教育委員会会議録

令和4年塩尻市教育委員会10月定例教育委員会が、令和4年10月27日、午後1時30分、えんぱーく会議室401ABに招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 11月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について
報告第4号 学校運営協議会委員の任命に係る専決処分報告について

4 議 事

- 議事第1号 令和4年度（2022年度）全国学力・学習状況調査の結果について

5 閉 会

○ 出席委員

教育長	赤 羽 高 志	教育長職務代理者	碓 井 邦 雄
委員	小 林 夕 香	委員	徳 武 あ ゆ 子
委員	甕		剛

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	太 田 文 和	生涯学習部長	胡 桃 慶 三	
こども教育部次長 (教育総務課長)	熊 井 美 恵 子	生涯学習部次長 (社会教育スポーツ課長)	田 下 高 秋	
こども課長	竹 中 康 成	平出博物館長	小 松	学
家庭支援課長	植 野 敦 司	市民交流センター 長(図書館長)	上 條 史 生	
主任学校教育指導 員	村 上		啓	

○ 事務局出席者

教育企画係長 佐 藤 智 樹

1 開会

赤羽教育長 皆さん、こんにちは。教育委員会の皆様におかれましては、昨日、終日にわたりまして、長野市戸隠伝統的建造物群保存地区と廃校を利用した戸隠地質化石博物館への視察研修、お疲れさまでございました。昨日お話ししましたが、専門の学芸員による現地説明はとても勉強になりました。それぞれに塩尻市とつながりがあるということも、私、初めて知りました。

本日の10月の定例教育委員会はえんぱ一くが会場です。私、以前から予約していた本が、今日メールで届きましたということで、ちょうどいいタイミングで本を借りることができました。今週の前半ですが、雨上がりの朝、乗鞍とか高ボッチとか、初冠雪となりました。いよいよ冬の足音が聞こえてくる季節となりました。

それでは、ただいまより10月定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

2 前回会議録の承認

赤羽教育長 次第に従いまして、2番、前回会議録の承認について事務局から説明をお願いします。

佐藤教育企画係長 前回、9月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名いただきますので、よろしくお願いいたします。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

赤羽教育長 ありがとうございます。それでは、そのようにお願いいたします。

3 教育長報告

赤羽教育長 3番、教育長報告に入ります。私からは3点報告いたします。

1点目です。県内新型コロナウイルス感染者数ですけれども、昨日は、新規感染者が1,500人を超えております。9月8日以来の人数ということで、再び増加傾向にあります。この10月は、保育園、学校では行事が滞りなく実施されております。保育園では、秋の遠足、それから年長さんは就学前健診。小学校では修学旅行、音楽会、中学校は文化祭、音楽祭など、クラスメートや友達との思い出づくりを実感している子どもたちだと思います。

小中学校の音楽会、それから中学の音楽祭は、多くの保護者も来校して生演奏の醍醐味を皆で味わっているそうです。全校児童・生徒や保護者の皆さんが見守る中、どの学級・学年も、今までの練習の成果を発揮してすばらしい演奏となった。そういう報告も聞いております。小学校では、よくあることなのですけれども、音楽会の前になると、家に楽器を持ち帰ります。そして、家族の応援を頂きながら練習を重ねて、その様子を保護者は思い出しながら本番の演奏を聴いているのではないのでしょうか。また、会場参加できない保護者を対象に、録画配信がもう何校も行われております。我が子の様子を自宅でゆったりとした気分で鑑賞できる機会にもなっているのではないかと思います。

このコロナ禍の中で、小学校の修学旅行先ですが、佐藤係長に調べてもらいましたが、山梨県河口湖が今のところ一番多くて、そのあとですが、コロナ禍前の目的地である東京ディズニーランドとか、東京の「ライオンキング」鑑賞等も始まりだしています。

そして、中学校ですけれども、今、中体連の新人大会の真ただ中でありまして。2年生に

としては、代が変わって初めての公式戦となります。どの部も、学校の代表として胸を張って試合に臨んだり、または、何校かの合同チームによる大会参加もあるということを聞いております。

2点目、塩尻市キャリア教育委員会、そしてキャリア教育支援協議会の合同会議が10月13日に実施されました。市内の学校を代表して、塩尻西部中学校の上原先生から、持続可能な地域産業を創出できる人材育成事業として、ふるさとブドウ学の総合的な学習の時間の取組経過を発表していただきました。興味を持って聞かせていただきました。1年生はブドウ学、2年生が地元の産業、3年生が塩尻市の文化と分かれております。

1年生のブドウ学ですが、ふるさとのブドウのファンを増やすにはどうすればいいかというテーマで、生徒たちは、原農園の原さんによる講演会を聞いたり、実際にブドウの傘かけ作業を行ったりして、どうやってブドウのファンを増やすかということで、現場にあった剪定木のブドウの枝の残りとか、あと、ワインを絞った絞りかすなどを原料にして、試作品を開発したり、その売り方についてポスターをパソコンで作ったりと、作業を進めているという発表でした。

2年生は、地元の産業で、地元の事務所のファンになろうということで、キャリア教育の出張講座を行いました。ワイン製造、漆器、建設、医療、製造業の方から直接お話をお聞きしたりする中で、文化祭で学んだことを発表、発信しました。生徒の感想では、自分の将来に向けて、仕事や実現するための道筋について考えが深められた、地元の企業の方々の思いを知り、もっと塩尻のことが知りたくなったと感想がありました。自分から行動しようとする生徒の新たな問いが生まれる姿ではないかなと思いました。

実際、建設の分野で、塩尻西部中学校で発表された会社の社長と、私は同じグループ討議の場所になりました。社長は、2019年10月の台風19号の翌日、千曲川流域で氾濫被害が広がったという話をされました。特に長野市の穂保地区は、堤防が70メートルも決壊、2階近くまで土砂で埋まった話をされた後、建設業界にまず県から依頼要請があったそうです。自分たち建設業界の方が、会社で持っている大型重機、トラックを持って現場に駆けつけ、幹線道路など重要な道路の確保、災害救助等も行ったというお話をお聞きしました。

ニュースでは、自衛隊の活動もたくさん報道されていますけれども、なかなか取り上げられない裏方というか、その皆さんが誇りを持って災害復旧に当たるという話をお聞きしました。今年、私も行ってきましたが、「がんばろう！長沼」という大きなメッセージボードが立つ中、被災した当時の体育館は、床が剥がれ、外壁が全部取れてしまった、骨格だけ残っている体育館でしたが、現在はきれいな床が張られて、外壁も新しくなって、地元の中学生か高校生がバスケットホールの練習をしていました。

塩尻西部中の3年生は、塩尻市の文化に焦点を当てて、塩尻市の文化のファンになろうと、自分が興味を持った塩尻市の中の名所の中から、塩尻市の調べ学習をして、校外現地学習をして、一人一人がプレゼンをまとめ、地域へ発信する学習を進めているそうです。その発表会、もし私の都合がつけば、ぜひ行ってみたいなと思っております。

この塩尻西部中学校で行っている、未来の担い手と生産者、事業者の共創で、持続可能な地域産業を目指す探究型教育プログラムを実践しております。株式会社リクルートのじゃらんリサーチセンターの三田さんという方を中心にしたフォローを頂いて進めています。

3点目です。生涯学習部の社会教育スポーツ課共生推進係を担当しています姉妹都市ミシ

ヤワカ市派遣事業を報告いたします。塩尻市在住の高校生3名が、明日28日から11月4日までの8日間、姉妹都市ミシヤワカ市の青少年派遣として出発し、ホームステイを通して学びを深めてきます。ミシヤワカ市長、教育長との面会、地元の高校や大学、あと塩尻庭というところの見学、そして本場ハロウィンのイベントに参加します。派遣前の面接がありまして、そこで一人一人に意欲をお聞きしました。1人の生徒が「私はどちらかという、引っ込み思案である。しかしこの今回の応募をきっかけに、前向きな自分を目指したいです」と話しました。市職員の塩原さんが随行しますが、3名の派遣者は、既にもうホストファミリーと何度も何度も英語でのメールを交換して、持っていく物、日程等の準備を進めているという話を聞きました。帰国後、報告会があるそうですので、私も楽しみにしております。

私からは以上であります。今の報告に関しましての御質問、御感想、それから、実際に教育委員の皆さんが行かれたイベント等、参加されました意見や感想等ありましたら、ここで、委員の皆様からお願いしたいと思っております。

碓井教育長職務代理者 では、お願いいたします。教育長も触れられたように、今もコロナ禍は続いているのですけれども、従来行われてきた行事とかイベントが大分再開されてきたかと思っております。その一つになるかと思っておりますが、

10月8日に松本平広域公園で行われた塩尻市民祭の陸上競技大会についてお話しさせていただければと思います。実は私、あまり熱心な会員ではなくて申し訳ないのですけれども、塩尻陸上競技協会の会員となっております、その関係で、この大会に競技役員として参加をいたしました。この大会もほかの催し物と同じように、コロナ禍の影響で昨年、一昨年は中止となりまして、本年は3年ぶりの開催でありました。そんな関係もあるのでしょうか、参加者は小中学生、高校生中心に一般の方も含めて170名ほどということで、例年より少ない参加者数ということでありました。

私の分担は表彰というか賞状の関係で、この係に配属になりました市のスポーツ普及員の方と協力しながら役割を務めさせていただきました。市のスポーツ普及員の方は全体で10名ほど、この大会にお見えになっていたかと思っております。私の分担場所の仕事が立て込んできたときには、ほかの普及員の方が応援に来てくださるなど、普及員の皆様には、のり代を広く臨機に御対応いただいて、本当にありがたい思いを持ちました。

大会が終わった後、この場所を担当された普及員の方が、子どものいい顔を見ることができてとてもよかったと、そんなことをしみじみとおっしゃっておられました。私も同様の感想を持ったわけでありまして、走り幅跳びで入賞した小学生が、もう少し跳びたかった、次も頑張りたいと、そんな悔しさとか次への意欲をつぶやく姿がありました。このような姿も見られたわけですが、入賞された方だけではなくて、参加された全ての方が様々な思いを持ってお帰りになられたのだろうと思っております。大会に関係させていただく中で、実際に参加して、他の人との関わり合いの中で自分自身に向き合ったからこそ、得るというか学べる内容が多いんだなと実感しました。

また、大会を運営するに当たって会場確保だとか、これはほかの競技もそうかもしれませんが、競技役員の高齢化等で運営人員の確保が大変だということもお聞きをいたしました。特に子どもたちにとって、参加、挑戦できる場の確保というのはとても大事だと思いますので、工夫して継続できるようお願いしたいと思っております。まだまだコロナ禍は収まらないわけでありまして、早く、思いっきり様々な活動ができるような状況になること

を願いたいと思います。以上であります。

赤羽委員長 お疲れさまでした。ありがとうございます。続けてどうでしょうか。

徳武委員 お願いいたします。教育長報告にもありましたけれども、学校行事がいろいろ行われておりまして、宗賀小学校では修学旅行が全員参加で無事に終わりました。とても先生が喜ばれていて、とてもよかったと聞いています。後に校長先生にお会いしたときも、本当に無事にできてよかったということをおっしゃっていました。

それから、その翌週ですけれど、地域学習がありまして、全学年、コミュニティ・スクールの関係で地域の方が先生になってやっている学習なのですが、その中で6年生の授業を見に行ってきました。6年生は、地域の歴史同好会の会員の方から、地域の歴史を学ぶために3回に分けて案内してもらっています。何班かに分かれていたのですが、説明者の方の中には、生徒のおじいちゃんですとか、お父さんが参加されている班もありました。自分の家族が学校の授業で地域のことを教えてくれるというのは、自分の子どもだけではなくて、近所の子どももいますので、身近な人から地域のことを教わるということはずごく良いことだと思います。

生徒は、いつも通学路としてももちろん通っているところなのですが、改めてタブレットを使って写真を撮ったりですとか、話を聞きながらメモを取ったりということをしていて、とても楽しそうにみんなで回っていました。今回が最初だったのですが、あと2回別のところを回るそうなので、まだまだこれから、普段は通り過ぎてしまうようなところですが、勉強していつてもらって、もっと理解を深めてもらえたらいいなと、私もとても感じました。

それからもう1点、10月12日ですが、Zoomで広陵中の職員の先生による不登校の視察報告ということで、報告会を聞かせていただきました。聞いていて、すごく思ったことなのですが、私たちが生活している中では、不登校のことは分からないことがすごく多いのですが、こうやってZoomで簡単に参加できる形で報告していただいたことがとても分かりやすく、私はよかったと思いました。

その中ですごく印象的だったのは、岐阜県の中学校と愛知県の中学校のことを私は聞いたのですが、学校に行くことが難しい生徒が不登校という感じではなくて、通常学級とは別の、専門の教室をF組という形で設けて、そちらの教室に普通に登校して、そこで勉強するということがすごく驚きましたし、また、そこに専門の先生をつけるのではなくて、普通に、一般のほかのクラスを持っている担任の先生が空き時間でそのクラスに行って教えるということもしているそうで、県外ですけれども、いろいろな取組があるのだなということを感じました。

それで、最後に質問の時間がありましたが、会場の方のみならず、中には県外からZoomで参加されている方がいらっしゃいまして、元先生と言ったかな、質問をしていました。私は学校からチラシをもらってきて知ったのですが、県外の方はどういうふうに、こういうZoomの会議があるということをごどこで聞いてきたのかということも興味がありましたし、また、私は個人的には、こういうものは普段学校に行けている御家族の方に聞いてもらいたいとすごく感じました。もっともっと参加してもらえたらすごくいいのにと、とても感じました。以上です。ありがとうございました。

赤羽委員長 ありがとうございます。見ていただいてありがとうございます。今度は、広

陵中学校は11月21日、広陵中の実践発表が行われるということを聞いていますので、またよかったらお願いします。

徳武委員 ありがとうございます。

赤羽委員長 ありがとうございます。今の話に関連してありますか。

碓井教育長職務代理者 不登校の児童生徒に関連してなのですけれども、以前の協議会のときに、本市の不登校の児童生徒の対応や状況の説明があったかと思いますが、頂いた資料等の数値を見ると、塩尻市についても、現状は大変厳しいものがありますし、子どもたちの将来にとってもどうなのだろうという、心配を持ったわけであります。

11月21日には広陵中学校の実践発表もあるということですので、私もできれば参加したいと思っていますけれども、ぜひ、それらを含めて私たちも研修をしたり、話したりする場等を設けていただければと、そんな要望も含めてですけれども、よろしく願いいたします。

赤羽教育長 ありがとうございます。熊井課長、何かありますでしょうか。

熊井こども教育部次長（教育総務課長） 本市につきましても、全国、県同様、不登校の児童生徒が増えてきておりますが、本市の支援体制は何年も変わっていない状況にあります。来年度に向けまして、体制を強化していきたいと考えております。

現在、子と親の心の支援員が2名おりますが、各中学校区に1人の配置を予算要求し、よりきめ細かな支援により早期発見、早期対応が可能になり、不登校児童生徒の増加を抑制する効果が期待できると考えます。これから予算編成を迎えますので、現状を市長にお伝えし、対応してまいります。

壺委員 関連して。教えていただきたいのが、フリースクールに行かれています方、また、不登校でオンラインでの参加の場合の出席とか欠席の扱いについてはどのような対応を取っているのか教えていただきたいと思います。

熊井こども教育部次長（教育総務課長） オンライン学習、フリースクールにつきましては、校長の判断により出席扱いにしておりますが、評価につきましては難しさがあり、委員今後、検討していかなければならない課題でございます。

壺委員 ということは、学校ごとに今は違うということですか。

熊井こども教育部次長（教育総務課長） 校長の判断で対応している現状でございますので、統一的な基準を検討してまいります。

赤羽委員長 よろしいですか。

壺委員 いいです。

碓井教育長職務代理者 不登校の児童生徒への対応の体制を強化していくということは私もあの数値を見せていただいて必要ではないかと思いましたが。その関係で、子と親の心の相談員を増員していくというお話があったわけですけれども、具体的にはどのような活動をして、どんな姿を引き出していくのか、そんな点を教えていただければと思います。

熊井こども教育部次長（教育総務課長） 塩尻市では年間30日以上欠席の児童生徒が300人ほどおり、その300人を2人の支援員が対応していることから、1人当たりの担当が非常に大きい現状です。支援員の増員により、よりきめ細かな支援をすることで不登校の増加が抑制され、教員が授業や学校づくりに一層注力することで、不登校の未然防止につなげていきたいと考えております。

赤羽教育長 付け加えてお願いします。

村上主任学校教育指導員 市内の校内中間教室は今、中学校は檜川小中学校を除いて、5校の各学校に設けられていて、その状況は、昨年くらいまでにでき上がってきております。丘中と広陵中は県からも0.5の加配がありますので、その先生もいらっしゃいますけれど、多くは空き時間の先生方が全ての時間に入れるような体制を5校全て取っております。

碓井教育長職務代理者 そういう状況であれば、そんな点をカバーしていただくことを市のほうでやっていただけると、子どもたちにとっても、不登校の子どもたちにとっても、学校にとってもとてもよいのではないかなと思います。ぜひ、その辺のところをさらに研究していただいて、よりよい方向を出していただければありがたいと思います。

赤羽教育長 ありがとうございます。いいですか。

また、広陵中が今、先陣を切ってモデル校という形でやっていますので、今年のまとめもそうですけれども、また来年以降、どんな形がいいかということを中心に極めていくというか。それには予算付けという大きな難関もありますので、今の形を直しながらということもあるかもしれませんが、できる限りしてということで、今、部長から話がありました。

碓井教育長職務代理者 出欠の話はいいですか。

村上主任学校教育指導員 学校で決めているというか、出席にするのか欠席にするのかということは、各学校の校長先生が判断しているということです。

碓井教育長職務代理者 いいです。

審委員 では、別件でいいですか。先ほど、教育長のほうから災害活動についてのお話をされたのですが、先日長野県で、長野県防災訓練という大々的に行われたわけですが、ちょっと1点お聞きしたかったのが、市内には緊急避難場所とか、各地区の学校なども避難場所として指定されているのですが、9月の両小野中学校の学校だよりを見せてもらうと、災害対応の自販機を設置したと、報道も含めてありました。その設置に至った過程というか、それからまた、ほかの学校はそういう予定があるのか。そんなことをお聞きしたいというのがあります。

できれば、中学校は設置してもいいのではないかと思ったりもして。これは、充電できたりとかという仕組みの新しいタイプの自動販売機だとお聞きしたので、その辺の過程とかこれからの予定とかを教えてくださいたいと思います。

赤羽教育長 では、分かっている範囲でいいと思いますが、教育総務課長お願いします。

熊井子ども教育部次長（教育総務課長） 両小野中学校が、既に災害対応の自動販売機を設置しております。経過につきましては、業確認いたします。

太田子ども教育部長 経過につきましては、飲料水メーカーの地域貢献というメニューがあるようで、メーカーさんが例えば市内の企業と組んでそこに設置して、防犯カメラも一緒につけてくれますよという取組を進めております。去年、市内の小中学校にも、そういったものはどうかという投げかけもする中で、両小野中学校は、ぜひ取り組んでみたいということで、真っ先に手を挙げてくれたのが今回実現したという経過になっております。

ただ、気をつけなければいけないのが、自販機があって、中学生がお金を持ってきて、買った、奢らされたなど、いろんな問題が心配されるように聞いております。両小野中学校では、生徒自分たちできちんとルールを決めて取り組んでいくと聞いています。その辺がクリアされれば、保護者にも地域の人にも理解が得られていくのではないかと考えています。

審委員 緊急避難場所として、公民館の場合は今、ほとんど冷暖房も完備されているしWi-

F i も通っていると思います。学校も多分完備されていると思うのですが、でも、体育館は冷暖房が入っていないですね。

私も災害対応活動している方に聞くと、今、エアコンみたいに風が吹くタイプではなくて、壁に輻射式冷暖房の機械を設置させて、室内の温度をコントロールする物があり、無風で通常のエアコンよりもコストが安くなるということを聞いたのです。今後、災害の避難場所として、また夏に子供たちが利用するときの熱中症対策としても必要になるのではないかと考えています。検討をお願いしたいと思います。

赤羽委員長 広丘小学校の体育館は、トイレが増設できる仕組みが最初からできている。たくさん来ても使えるという、様々なことがあるし、そのユメックスアリーナもかなりの数のトイレが使える。

ありがとうございました。どこか別のことでありましたら。

小林委員 講演会などに出掛けたというわけではないのですが、秋はお友達に会う機会がたくさんありまして、言語聴覚士と保育士と看護師と、昔の仲間といろいろと行き会うことができました。その時の情報からですが。

幼児・乳幼児のマスクによる弊害というのを、今年2月に、こども課長さんからの報告で、市内でテスト的にクリアマスクを使って実験的に行っているというお話を伺いました。知人たちの話によると、もう既に吃音とか、発音に問題を感じる子どもたちが増えている。保育士としてその場にいるとあまり気がつかないのですが、巡回している人たちがいまして、そういう人たちは、かなり危機的にマスクの弊害が増えているということを言っています。

言葉を獲得する時期に周りの大人はマスクで、発音がこもった音で、また口の動きも見えないような状態で話をしているので確かに増えているので、ここ二、三年先がすごく心配だという話をしていました。

だんだん、小さいうちからお子さんを預けるおうちも増えてきていると思うのですが、本当に言葉を獲得しなければいけないときに、親もそうなのですがマスクをした状態でおうちの中にいるということは、本当に子どもにすごいダメージを与えるのだということが、学会のほうでも調査され、報告されているのです。

そういう発信を市でもしていただいて、マスクしていると活動が鈍るとか、体に与える影響は皆さん心配しているかもしれないけれど、大人が与える影響については、あまり知らないお母さんたちも多い。情報発信として、なるべく家庭の中でマスクをしないとか、保育園の先生方も、小さい子と1対1でやりとりをする場合はしょうがないとしても、大勢に発信するときにはマスクを外して喋ったほうがいいのかとか。そういうことまで、もう少ししていただいたほうがいいのかということ、この秋に情報が入ってきたので大変心配しています。

2月にそういう実験的なことをしていらっしやるとおっしゃっていたので、まだ結果の途中かもしれないのですが、何か情報として入ってきているならお話しいただきたいなと思ってお聞きしました。

竹中こども課長 2月にマスクの御質問を頂いて、ちょうどそのときに、透明のマスクを試験的に導入して使っていたのですが、すぐに曇ってしまう、密封性が高くて水滴がついてしまうことが分かりました。1時間くらい着けていれば、もう内側が真っ白になってしまうような状態で、試着した保育士も、使いづらいということで、実験は頓挫してしまったと

いう状況です。

そのときにも少しお話ししたのですが、当時、品質の良いマスクも市販はされているようなのですが、大量購入ができない。入手したいと業者に言っても、買えないという状況でして、この問題については本当に頭の痛いところであります。

子どもについては、保育園の中では、マスクについては強要はしないということで進めております。ただ、保育士については、やはりたくさん子どもたちと交わり、あるいは先生方同士も学年会ですとか職員会ですとか打ち合わせがある中で、できるだけ感染予防という観点を重視して、マスクをした状態で保育をしていただくことになっておりますけれども、この問題について、いろいろな問題点が指摘されているということは承知しております。また勉強会等、関係機関と協力して考えていきたいと思っております。現状としてはそういう状況です。

小林委員 子どもたちにはマスクをさせない、しないというのは本当に大事なことだと思うのですが、やはり心配なのは、言語を獲得するという能力に対するものです。やはり、そんなに密封しなくてもいいのではないかと、飛沫さえしなければいいわけだから、もうちょっとその辺を臨機応変に対応して、なるべく発達に影響が起きないように考えていける方向性を探していただきたいなと思います。よろしくお願いします。

赤羽教育長 ありがとうございます。そのほかは、よろしいでしょうか。

報告や御意見、ありがとうございます。それでは次に進みたいと思います。

○報告第1号 主な行事等報告について

赤羽教育長 それでは、報告第1号、主な行事等報告についてお願いします。資料1ページから5ページです。事務局から主な行事について説明をお願いいたします。

上條市民交流センター長（図書館長） 私から説明いたします。まず1ページ上段ですが、9月14日水曜日、塩尻市・大桑村図書館システム共同利用協定調印式を実施いたしました。大桑村が新規に図書館を開設するに当たりまして、塩尻市の図書館システムを共同利用することで、大桑村長、小口市長、この両方で協定書の調印を行ったものでございます。

2ページ下段にありますように9月23日、この共同利用によりまして、大桑村の公共図書館が新規開館いたしました。今後も近隣市町村との連携による図書館サービスの向上を目指してまいりたいと考えております。

続きまして、3ページ上段ですが、信州しおじり子ども本の寺子屋で初めて落語を取り入れた講座を開催いたしました。子どもたちが日本の伝統芸能である落語を楽しむイベントはとて好評でしたので、今後も計画していければと考えております。

続きまして、4ページ下段です。10月8日土曜日、第1回大門ウォーク。中心市街地活性化事業として、クイズラリーのイベントを計画し開催いたしました。大門三番町実行委員会の主催で、子どもたちに大門の商店街を知っていただくよい機会になったと考えております。次年度以降も、継続して行うことがよいのではないかと考えております。私からは以上です。

赤羽教育長 続けてございますか。以上でよろしいでしょうか。それでは、今の発表またはこのページの中のもので質問、御意見ありましたらお願いいたします。

徳武委員 今の図書館長のお話なのですが、この大桑村とのシステムの共同利用ということで、新聞でも見ましたし、大変興味があつていいなと思ったのですが、塩尻市と大桑村は結

構距離があると思うのですけれども、大桑村とそのような協定を結ぶようになる、何かきっかけがあったのか、もしそういうことがあれば教えていただきたいと思います。

上條市民交流センター長（図書館長） 公共図書館を開設するというのは、村としての初めての事業でございまして、様々な準備が必要です。特に図書館システムの導入という分野では、専門的な知見が必要であるということから、中信地区の同じ図書館の協議会に市村が入っているということもございまして、システム導入に対してアドバイスが欲しいという話がありました。

その延長線上で、システムの調達には高額な費用がかかるという面がございまして、今回、市村の間の図書館サービスを協力しながら向上させていくという趣旨のもとで、具体的には、塩尻市立図書館の1階のサーバー室にある図書館システムのサーバー端末を、光ケーブルで大桑村と結ぶことによりまして、遠隔的にシステムを使えるといった技術で共同利用するものでございます。大桑村からの申出に応じて、私どもで協力をしたという経過でございます。

徳武委員 ありがとうございます。実際に利用とかは、どうなのですか。大桑村と塩尻市と、こういうやりとりは結構多いのですか。

上條市民交流センター長（図書館長） 現状では、大桑村図書館の書籍を貸出し、管理するシステムを、オンラインで塩尻市立図書館のサーバー上で行っているという状況でございます。ただ、それによりまして、大桑村図書館で蔵書検索をするときに、塩尻市立図書館及び県内の公共図書館の蔵書を横断検索する機能が利用できます。大桑村は今、1万冊程度の蔵書数ですけれども、塩尻市は50万冊の蔵書がございまして、近隣の公共図書館の蔵書検索もできるということから、大桑村の利用者の方からすると利用検索できる対象となる本の数が圧倒的に増えました。図書館同士の相互貸借という、本の貸し借りのサービスを利用することにより、図書館利用の可能性はかなり広がっているという状況でございます。

徳武委員 どうもありがとうございます。

赤羽教育長 よろしいですか。そのほか質問、御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ほかにないようでしたら、次に進みたいと思います。

○報告第2号 11月の行事予定等について

赤羽教育長 報告第2号、11月の行事予定についてお願いします。資料6ページであります。全員に関わるものは、2日と15日に諸表簿・施設点検。10日と17日には、こんにちは教育委員会。ここにはありませんが、9日に塩尻市PTA連合会の行政懇談会も入っております。24日には定例教育委員会・協議会及び総合教育会議で、市長をお迎えして行われます。来月は、またたくさん行事がありますが、ぜひ皆様の御出席をお願いしたいと思います。

それでは、見ていただきまして、御質問等ありましたらお願いいたします。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

それでは、次に進みたいと思います。

○報告第3号 後援・共催について

赤羽教育長 報告第3号、後援・共催について、資料7、8ページであります。見ていただき

まして、質問等ありましたらお願いします。

審委員 ちょっと教えていただきたい。昨日も少し話させてもらったのですが、後援をつけるときに、例えば塩尻市の市民が関わっていることで後援を承認するのか、全然関係ない団体とか事業であっても承認をするのかという、その基準を少し教えていただきたいなと思います。

田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長） 後援・共催の基準でございますが、どこに住まわれているかという基準ではなくて、教育委員会の後援につきましては、ホームページでも公表させていただいている基準に基づいて後援等させていただいております。具体的には、教育、学術、文化等の向上及び普及に寄与すると認められることであるとか、広く市民を対象として実施されて、公益性が高いものである等5項目の基準を設けまして、それに該当するか否かで判断させていただいております。以上です。

赤羽教育長 続けてありますか。

審委員 そうですね、例えば91番なんかは代表者が岡谷の方で、創立20周年記念第23回定期演奏会ということだったのですけれども、何でこの塩尻市の教育委員会の後援が必要なのかなというのが、ちょっと分からなかったのでも聞きたかったのですが。向こうが欲しいというだけの話であれば。

田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長） 近隣の市町村の教育委員会の後援により、これだけ広いところから認めていただいて開催していることを示すことであると予想します。

審委員 そういう感じでしょうね。分かりました。ありがとうございます。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。そのほかございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、次に進みます。

○報告第4号 学校運営協議会委員の任命に係る専決処分報告について

赤羽教育長 報告第4号、学校運営協議会委員の任命に係る専決処分報告についてです。資料9ページ、事務局から説明をお願いします。

熊井子ども教育部次長（教育総務課長） それでは、報告第4号、学校運営協議会委員の任命に係る専決処分報告についてお願いいたします。9ページの資料No.4でございます。学校運営協議会委員推薦書が塩尻東小学校から提出され、委員の任命について教育長専決により決定しましたので、御報告するものでございます。

教育長専決日は令和4年10月1日。浜崎正委員の任期は令和4年10月1日から令和6年3月31日まででございます。説明は以上になります。

赤羽教育長 ありがとうございます。委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

報告のとおり御承知おきください。

次に進みたいと思います。

4 議事

○議事第1号 令和4年度（2022年度）全国学力・学習状況調査の結果について

赤羽教育長 続きまして、議事第1号、令和4年度（2022年度）全国学力・学習状況調査の結

果についてですが、資料 10 ページです。事務局から説明をお願いします。

村上学校指導員 それでは、お願いいたします。令和 4 年度の全国学力・学習状況調査の結果について御報告いたします。10 ページから御覧ください。

調査の目的は、学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることと、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することです。本市では小学校 6 年生 450 人、中学校 3 年生 558 人が参加をいたしました。児童生徒については、教科に関する問題による調査と、生活や学習に関わる質問紙による調査が行われました。また、学校に対しては質問紙による調査が行われました。

まず、教科に関する調査結果は、小学校 6 年生は国語、算数、理科それぞれにおいて、全国及び県の平均正答率を上回る結果でございました。中学校 3 年生は国語、数学、理科それぞれにおいて、全国及び県の平均正答率を上回る結果でございました。今後の各教科等の対応については、11 ページに記載してありますので、御覧ください。

次に、児童生徒に対する質問紙の結果ですが、11 ページから 13 ページに特徴的な項目についてまとめてございます。「授業では課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいますか」では、全国平均を上回り、日々の授業に自ら前向きに取り組もうとしている本市の子どもたちの様子がうかがえます。

学校に関する質問紙の結果についてですが、16 ページから 17 ページにまとめてございます。教科指導、教育課程の編成、地域との連携につきましては、昨年度に引き続き、成果が上がっております。特に「保護者や地域の人との協働による取組は学校の教育水準の向上に効果がありましたか」の項目は、全国平均を大きく上回りました。コロナ禍の中でも、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした、保護者や地域の人との協働による活動が復活し、学校の教育水準の向上に大きな効果をもたらしております。

児童生徒に一人 1 台配備されたタブレットの使用については、ほぼ毎日までには至りませんでした。授業やコミュニケーション場面でのタブレットなどの効果的な活用を今後さらに進めてまいりたいと思います。

18、19 ページは、市内の A 中学校の事例です。生徒を主役にした授業づくりや生徒による授業評価を授業改善に反映させることにより、安定した学力をつけている事例でございます。

最後 20、21 ページは、今後の塩尻市の小中学校の取組についてです。本市では、「一人ひとりの育ちに、ていねいに向き合う教育」を基本理念としており、生活の基盤づくりや元気っ子応援事業を核にした個に応じた支援を今後も推進していきます。

不登校対応では、明るく楽しい魅力ある学校・学級づくりを進めるとともに、子どもや保護者の声に耳を傾け、関係機関とも連携して、チームで多様な学びに応える不登校対応を進めてまいります。

また、教員の指導力向上と授業改善、地域の人的・物的資源を生かした教育活動の充実、小中連携と 9 年間を見通した指導内容・方法の研究を大切に扱い、本市の重点的な取組として進めてまいりたいと思います。以上でございます。

赤羽教育長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様からこの内容につきまして、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

碓井教育長職務代理者 お願いします。教科に関する調査結果について、小学校、中学校ともそれぞれの教科が全国及び県の平均正答率を上回っているということで、塩尻市の様々な取

組の成果が出ていると考えて良いのではないかと私は思います。もう少し細かく言うと、子どもたちの日頃の学習への取組だとか保護者の皆様のサポート、また、学校の先生方の指導支援や市教委の施策等が総合的に結びついた効果が結果として表れているのではないかなと思います。

ただ、市の全体の平均正答率ということでもありますので、学校による違いとか、個々の児童生徒の習熟の差等もあるかと思えます。今、村上主任からもありましたが、この調査の目的に沿って分析結果を活用して指導等の改善を図ってもらって、一層、一人一人の学力や学習に向かう姿勢等を伸ばして行ってほしいと思います。

それから、資料の 12 ページの (3) のアの生活に関する観点の規則正しい生活や読書についてであります。私はこれが学力向上の土台となる大事な部分の 1 つだと、そんなふうに思います。今後も継続して行ってほしい内容であります。市では「早ね早おき朝ごはん・どくしょ」を市民運動として取り組んでいるわけですが、最近はどのように働きかけているのか教えていただける部分がありましたら、お願いしたいと思えます。

また、13 ページに土日・休日での学習時間について取り上げられていて、平日も含め小中学校とも全国をかなり上回っているという結果が記されています。私もかつての教員時代は家庭学習について大事にしてきました。家庭学習は、時間だけ多くかければそれでいいということではなく、学校での授業の充実があってこそ効果があるものと思っていますけれども、家庭での自由な時間の中で、自分から主体的に学習に取り組むことは結構難しさがあるのでないかなと推測をします。子どもたちは家庭で、テレビを見たりゲームをしたり、また社会的な活動に参加したりなど、なかなか忙しいと思えますが、どんな働きかけがあってこのような状況が生まれているのか、分かりましたら教えていただければと思います。

それから、18 ページから学力向上に向けた A 中学校の取組が載っていますが、そのところに「A 中 学びのスタンダード」を授業づくりの指針として、生徒たちの視点に立った授業づくりに取り組み、主体的・対話的で深い学びに向けた実践を日々行っていると、そんなふうにあります。このような取組が学びのサイクルとして子どもたちに定着してきていて、家庭でももう少し学習を深めていきたいという意欲につながって、家庭学習の時間が増えているということも考えられるのですけれども、そんな点も含めてお願いできればと思います。以上です。

赤羽教育長 今、3 点御質問、お聞きしたいことを含めてあったのですが、村上主任、お願いします。

村上主任 学校教育指導員 お願いいたします。「早ね早おき朝ごはん・どくしょ」に関わっていますが、授業参観等もさせていただきますけれど、教科の学習だけでなく保健指導等もそれぞれの学校で工夫したものが行われております。栄養教諭の先生が担任と一緒に食事についての学習をしたりですとか、あるいは中学校のほうで、睡眠に関することについての保健的な学習を進めたりということもありますので、それらと日々子どもたち自身の心がけの中でこういう結果が出てきていると思っています。

読書に関わっては、市内の中学校多くの学校で朝読書の時間というのを設けているところがございます。定期的に毎日 10 分くらい、あるいは 15 分くらいの時間を読書に充てることで、本人も興味を持ちながら読書の習慣をつけている。それから市内学校の図書館も大変充実しております。新しい本当に今の子どもたちが興味関心を示す本にどんどん入替えなが

ら、そして展示等もしっかり魅力的なものに変えていると思います。市立図書館と連携しての取組というのも成果を上げていると思います。

家庭学習に関わってですけど、土日の家庭学習の時間をグラフに載せさせていただきました。少しずつ伸びてきているなということを感じております。先ほど碓井職務代理からも御指摘のあったように、1つは子どもたちの学びに向かう姿勢、大変前向きに向かう子どもたちが増えております。そこに先生方が授業と関連した家庭学習等を出したり、あるいは自主的な学習を大いに奨励したりということで、少しずつ家庭学習の時間が伸びていると思っております。それから、ここには塾等を利用している子どもたちの時間も含まれることになっておりますので、それは学校だけでなく家庭の方でも様々な、まさに自分のお子さんに合った多様な学びを求めて、いろいろ試していらっしゃるというのも、ここに数値として表れていると思っております。

「A中学びのスタンダード」ですけど、教師が授業スタイルを創るというところから、より子どもたちを主役にして子どもたち自身が自分たちの授業を創っていくんだという、そういう考え方に立って、A中でここ6、7年かけて進めてきているものです。このA中の取組が小学校でも広がって、小学校でも低学年用、高学年用ということで作り出している学校もございます。今年も他の2校くらいの学校で小中連携したような形、まさに9年間見通した形での学びのスタンダードになるような取組も始まっております。ただ、このような掲示する紙を作ることが目的ではなく、あくまでも子どもたちと先生たちで1時間、1時間、授業に取り組んでいくところが一番基になってまいりますので、今後も日々の授業改善に取り組んでいきたいと考えております。

碓井教育長職務代理者 繰り返しになりますが、「早ね早おき朝ごはん・どくしょ」については、子どもたちの力をよりよく豊かに伸ばしていくための基礎の部分になるかと思っておりますので、継続して必要な働きかけをお願いできればと思います。

それから、学校だけでなく今後の生活、子どもたちの将来にとっても主体的にとか協働的に学んでいく態度の育成はとても大切な資質になると思います。本日の資料にあるようなA中やB小の取組事例を生かして、基礎・基本の学力の確かな定着や、主体的に協働的に学んでいく態度の一層の育成に向けて、全市的にこのような取組がさらに進むことを願っておりますのでよろしく願いいたします。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。続けてございますか。

壺委員 全国学力テストについてですが、事前対策をしているということで、長野県教職員組合が教員対象にアンケートを行ったところ、回答した教員が勤務する74校のうち、およそ41%に当たる30校の教員が事前対策を行ったと答えたというニュースが出ていました。事前対策の内容を聞いたところ、過去問が43%、業者ドリルが29%、教育委員会から配布されたものが5%というデータが出ていますのですが、塩尻市の取組についてはどのように行ったのかということと、また、事前対策については各学校の対応なのか、であればこの結果の適合性という意味ではちょっと信憑性が下がるのではないかと思ったので、お聞きしたいと思います。

村上主任学校教育指導員 事前対策については各学校の取組ですので、市として特別な方向等は出してございません。それぞれの学校で先生方が子どもに対応したところで、これに向けてというよりも、あくまでも学力の向上ということに向けて取組を行っている、私自身は

認識しております。以上です。

養委員 ということは、してもいいし、しなくてもいいですよという形でいいのですか。

碓井教育長職務代理人 ちょっと私の意見をいいですか。私も全国学力の対策を各校でしているかどうか、それはどんな実態なのかということはよく分かりません。ただ、学習の仕方については、様々な見方とか考え方があかなと思います。私は、この全国学力については、この調査の目的を大事にしていくことが第一だと、そんなふうに思っています。

そのことを前提にしてですが、私は、全国学力調査の問題として出される内容は、今後子どもたちに求められている学力として必要な内容であると、そんなふうに考えております。したがって、そればかり、過去問ばかりとかその対策だけやっていたはいけないのですけれども、その方向性を学ぶことは、将来を生きる子どもたちにとって無益ではない、そんなふうに思います。以上です。

養委員 事前対策がいけないということよりも、ニュースとしてはいけない雰囲気が出てしまっているの、自分はそれが問題だと思って、要は学力がつけば別にどっちでもいいのです。子どもたちの学力をつけたりとか、勉強の仕方を覚えたりとか、そういうことなら全然いいのですが、それをデータ化したときに、この学校はどうなのか、ここの学校はどうなのかというのが、あまり気持ち的によくないなというふうに感じてしまうという、それだけなのです。分かりました。

小林委員 私も養委員と同じような疑問を持ちました。たしかこの調査が始まったときの第1回目ぐらいに息子たちが受けたのかなと思うのです。そのときは、担任の先生が何もやらなくていいんだよ、今のままの君たちを知りたいだけだからというようなことを言って、それで試験に臨んだと思うのです。その後の結果を私は把握していないし、知らないのですが、でもそういうふうと言われて受けていたのだろうと思っていたのが、この間テレビの報道で、徹底的に指導したと。それで過去問をインターネットから引き出せるみたいなことを聞いて、そうなんだと思いました。

この間、各学校のばらつきなども見せていただいて、だったらやはり事前に勉強している学校のほうが結果がいいのではないかと。そのままでいいんだよと言われて何もしなかったら、やはりそれなりの結果が出るのであって、どういうふうに学校がやっていたかは把握していないということでしたけれど、でも結果を見せられたら、ここは事前に勉強していたとか、していないだとかというのは書き添えてもらって、私たちも結果を見たほうがいいのかも思ったりもしました。

11月に4校の見学に行かせていただくのですが、去年行ったときは試験の前日だったということで、参観が全部自習だったという学校がありました。だからそういう試験の前に徹底的にやっている学校もあるのだなと思って、養委員のおっしゃるようにどっちでもいいのだけど、でもその結果が出てくるものなので、結果を見るのだったら事前勉強をしたのか、していないのかというのは参考資料としてあってもいいのかなと思って、このような各学校の資料を見させていただきました。

村上主任学校教育指導員 事前の学びについては、どれを取ってそう言うかが少し難しいです。日々の授業の改善の中で行われてきている部分が大きいものですから。なので見に行かれたときにテスト勉強をされたということを今お話しされたのですが、それは実際に中学校では、テスト範囲の勉強が終わっていたりしてテストがあつたりする場合には、そういう時間があ

るということもないわけではございません。けれど、それはたまたまだというふうに思いますので、その辺についてはまた慎重に扱っていただければと思っています。

赤羽教育長 学力・学習状況の問題なのですが、それが高学年だけの問題というわけでは全くないのです。3年生とか4年生とか、初めて習った、例えば分度器だとかを使った角度の、どうしても子どもたちが定着しにくい、この角度は何度だというとき、子どもたちは狭いほうしか見ないのだけど、問題は反対側を聞くとか、そこでその学年それぞれにきちんと押さえなければいけないところがあります。

子どもたちが誤解しやすい場合、それはその学年の時にしっかり学び取っているか、学んでいるかなというところも調査されます。そうすると高学年の先生だけが学力テストに向かって頑張ればいいのではなくて、本当に毎日、先ほど村上先生が言われたみたいに日々の授業をどれだけ内容を理解しているかというところをきっちり理解しているかどうかによって学校差というのが生まれると思います。

また今回やったところで学校ごとに課題があるところは、必ず下の学年に落として、このところをしっかりと3年生のところを押さえたほうがよいというような、そこをきっちりするということがとてもこの学力テストの意味が大きいところだと思います。そこを含めて塩尻市はしっかりと扱っているかなというところを感じていますので、ここまで本当に真剣に皆さん意見を言っていただいととてもありがたいというのが感想であります。ありがとうございます。

続けては、よろしいでしょうか。

小林委員 14ページの地域との関わりというところで、地域の行事に参加していますかという諮問で、全国平均の2倍以上になっていますという結果が出ていると書いてあるのですが、ちょっとどうなのだろうと思いました。コロナ禍で自分の地域のことを考えると、かなり子どもたちの行事も減っていて、ほとんど去年あたりはないような状態だったのです。それで、いつもだったら6個、7個あるところが1個か2個しかなかったりします。その1個か2個に参加したら100%参加しましたとなるし、このコロナ禍の計算はどうなのだろうというのは1つ疑問に思ったというところがあります。

それと17ページ(4)番で、学校のICT機器の活用については、中学校で80%という結果が出ています。でもここにあるように、子どもたちはかなり低い活用報告で、こういう差というのは、学校では高いパーセンテージが出ているのですが、各学校でのばらつきとかクラスでもばらつきが高いという結果が出ているのに、この高い数字になるのはどういうことなのだろうという疑問が湧きました。

赤羽教育長 この分析についてお願いいたします。

村上主任学校教育指導員 中学校、実際には両小野中は組合立のためこのデータには入ってこないものですから、5校での結果になります。5校の中では80%ということになるのですが、職員とそれからやはり子どもたちの意識の違いがひとつあったと思います。質問の項目は似た形ですが、子どもたちにしてみると、タブレットの利用ということで、実際の授業の中でタブレットを自分が操作してという捉え方をした子たちが多かったということが予想されます。

それに対して、学校の場合にはタブレットなどICT機器をということで、塩尻市は5、6年前に各教室にプロジェクターをほかの市町村に先駆けて入れてございます。今授業参観

して回りますとほぼ8割、9割、ほとんど教室で授業をやる場合にはプロジェクターを使っていたりしますし、当然それはパソコンと連動して動かしますので、職員が使っている率というのはかなり高いものになります。ひとつその辺で子どもの意識と学校との違いが出てきたかなということは私たちの方で分析しているところです。

それから、ただ実際に子どもたちが自分で、1人1台のタブレットを利用するような授業ということがすごく進んでいるかという、やはり実際に授業参観を委員の皆様方もされる機会があるかと思いますが、まだまだ少ないです。やはりこういう結果は、これは夏くらいに出しておりますので、学校の方におろしておりますので、2学期になりますとかなり個人個人がタブレットを使うというような授業が工夫して始まってきていると思います。ただ何でも使えばいいということではなく、あくまでもしっかりした授業が構成されて、その中で効果的な活用をしなければ、逆にタブレットだけということになりかねませんので、その辺それぞれの学校の先生方、いろいろと工夫しながら新しいものを創り出すというような意欲も持ちながらやっている状況でございます。

赤羽教育長 コロナ禍での学校行事、そのあたりは何か。

村上主任学校教育指導員 これについて私どもは、完全に数については把握できておりませんので、あくまでも文科省が質問項目として出して子どもに答えさせさせたものですから、こういう数字が出てきているということで、塩尻の子どもたちの意識とすると、地域の行事にたくさん参加しているという意識だなということがこれから読み取れました。

小林委員 分かりました。

碓井教育長職務代理者 タブレットなどのICT機器の活用に関連してですが、小学校と中学校の差が非常に大きいのですけれども、この点はどのように分析されているのでしょうか。

村上主任学校教育指導員 この数字とは違いますが、実際今年私たちセンター3人で70時間ちょっと授業参観させていただいておりますが、授業参観にまいりますと、小学校の方が実際個々の子どもが使う割合が多いです。中学の方がやや劣る実態も実際にごさいます。

碓井教育長職務代理者 そうすると実態とは若干この数値が違っているということになるのでしょうか。その辺は数値として出るものですので、共通理解を深めていただかないといけないかなと思います。塩尻市でも力を入れてICT機器については整備していただいているという状況もあつたりしますので、そんな点また確認をしていただければと思います。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。ほかにあればお願いしたいと思いますが、いいですか。

たくさんの御意見、ありがとうございます。それでは、採決したいと思います。議事第1号につきましては、原案のとおり決することよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

赤羽教育長 異議なしと認め、原案のとおり決することいたしました。ありがとうございます。

それでは、本日予定されておりました案件は以上でありますけれども、そのほか委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。

小林委員 先ほど子ども課長とお話の中でマスクの形とかそういう話に行ってしまったのですが、実際に現場の保育士さんのほうから、ちょっと心配なことがあるとか、そういう

ことは上がってきているのでしょうか。それが大事だと思って追加でお聞きします。

竹中子ども課長 現場のほうからは、まだクラス閉鎖とが頻繁に起きている状況ですから、園児の安全のほうに目が行っているのか、マスクをシースルーで保育をしたいという話はあまり届いてはおりません。これが感染状況が落ち着いてくれば、マスクそのものが取れてくれば一番いいのですけれども、今現状としてはまだ感染が続いているという状況でそちらの方に対する心配の声はありません。以上です。

小林委員 マスクもこういうマスクであっても、意識を持って子どもたちに話しかけると、そういう意識がなくて普通にしゃべってしまうのとは全然違うと思うので、マスクがクリアマスクではなくても、はっきりと大きな声でとか、見えるところの筋肉を使って表情豊かには、大変だとは思いますが、でもそういう子どもたちに結果が出ているということを知っていただいて、それで接していただければいいのかなと思います。よろしくお伝えしていただきたいと思います。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

小林委員 それともう1点いいですか。私は先月の人権擁護委員の件について結構なことを言ったなと思って、自分で後で反省したので補足させていただきたいと思います。71歳の年齢のことですごく集中的に、いかにも71歳以上だといけないみたいな言い方をしてしまったと思ってちょっと反省しました。実際は70歳以上で協議会のほうで活躍してくださっている方、部課長さんになっていただいたり、協議会長になっていただいたりとかしていっぱい活動していただいています。できれば70代を迎えずに2期、3期という状態で選任していただければということをごろですけど付け加えさせていただきたいなと思いました。済みません。

赤羽教育長 そのほか、よろしいでしょうか。

5 閉会

赤羽教育長 それでは、以上をもちまして、10月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後2時58分に閉会する。

以上

令和4年11月24日

署 名

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員 教 育 総 務 課
教 育 企 画 係 長
